

# 平成20年度生徒からの授業評価の結果について

香川県立善通寺西高等学校

本年度もより良い授業を目指して、教師の授業を評価する「授業評価」と生徒自身の授業に対する取り組みを評価する「自己評価」を、全ての教科・科目において年間2回実施しました。評価は全ての教科・科目に共通な項目と各教科の特性に応じた項目について、アンケート形式で4段階評価（4：非常に良い 3：良い 2：良くない 1：非常に良くない）で調査したものを点数化し、その数値を平均して算出し、授業の改善点等について分析し、授業に生かせるようにしました。

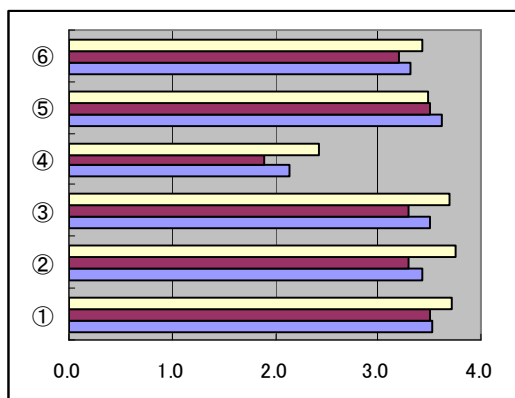
(授業評価項目)

- ① 授業の説明や質問がわかりやすい
- ② 黒板の内容がわかりやすい
- ③ 適当な進度で説明が行われている

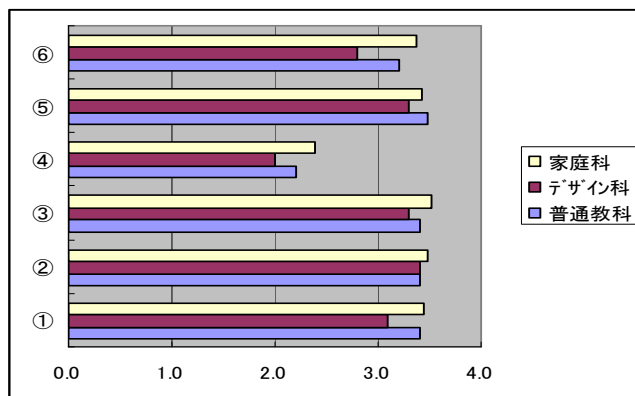
(自己評価項目)

- ④ 必要に応じてシラバスを見たり使ったりしている
- ⑤ 教材をきちんと準備して、授業を受けている
- ⑥ 私語や居眠りをせず、授業に取り組んでいる

授業・自己評価結果（7月）



授業・自己評価結果（12月）



上記のグラフは、実施した授業評価と自己評価結果のうち、全ての教科・科目に共通している項目について、普通教科と工業科目（デザイン科の専門科目）、家庭科目（生活文化科の専門科目）に分けて、1回目と2回目の数値の平均を表したものです。

まず授業評価の結果からは、どの教科の項目（①～③）の数値も3.0を超えており、授業の内容や質問や黒板の内容も分かりやすく、全ての授業が概ね適切な進度で進められているということが伺えます。次に自己評価の結果からは、⑤の項目（教材をきちんと準備して、授業を受けている）についてはかなり高い数値を示していますが、⑥の項目（私語や居眠りをせず、授業に取り組んでいる）については、1回目の数値は高かったけれど、2回目にデザイン科の数値が3.0を切ったのが少し気になりました。また④の項目（必要に応じてシラバスを見たり使ったりしている）においては、1回目・2回目とも極端に数値が低くなっています。シラバスは、学習の進度や評価方法を確認したり、学習の記録や反省をしながら学習ができるように作成しているもので、我々教員側が授業の進度に追われ、有効に利用できていないところもあり、この点については今後改善の余地があるように思います。

全体を通してみると、2回目の評価結果の方が数値が少し下がっています。これは進路が決定したことによって、やや気持ちが緩んだ事が原因しているように思われます。また、中には趣旨を十分に理解せずに評価したり、教師との人間関係により評価に差が出ていたように思われる所もありました。今年度で本校での授業は終わりますが、この結果を我々教員が真摯に受け止め、生徒が意欲を持って前向きに授業に取り組めるよう、今後も継続して努力していきたいと思えます。